

令和7年9月1日

令和7年度全国学力・学習状況調査結果について

熊野市教育委員会

1. 教科に関する調査結果について

小学校の調査結果について、昨年に比べ算数における全国平均との差が縮まりましたが、3教科ともに平均正答率が全国平均を下回っています。

中学校の調査結果については、理科における平均 IRT スコアが全国平均を上回りましたが、国語と数学は平均正答率が全国平均を下回っています。今回対象となった中学3年生が、小学6年生だった令和4年度の調査結果と比較すると、全国平均との差が国語で6.3ポイント、数学で1.9ポイント縮まっており、小学校から中学校への伸びがみられます。

※中学校理科の調査は CBT (Computer-Based Testing) 形式で実施されたため、その結果は IRT スコアとして算出されています。(R7 年度調査より)

IRT スコアとは、問題の難易度や識別力といった特性を考慮し、受験者の能力をより正確に測定するために用いられる統計的な採点方法です。この IRT スコアは、平均点が 500 点となるように設定されており、受験者の実力が集団の平均と比べてどの位置にあるかを把握しやすくなっています。

【小学校の調査結果】

	国語 (平均正答率)	算数 (平均正答率)	理科 (平均正答率)
熊野市	60%	53%	51%
三重県	66%	57%	56%
全国	66.8%	58.0%	57.1%
全国との差	▲6.8	▲5.0	▲6.1

【中学校の調査結果】

	国語 (平均正答率)	数学 (平均正答率)	理科 (平均 IRT スコア)
熊野市	51%	46%	506
三重県	53%	47%	498
全国	54.3 %	48.3 %	503
全国との差	▲3.3	▲2.3	3.0
小学6年生時の全国との差 (令和4年度)	▲9.6	▲4.2	

2. 各教科における特徴について

(1) 小学校

① 国語

- ・一部の問題において全国平均を上回っています。
- ・「漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題については全国平均を上回っています。しかし、「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」問題や「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」問題の正答率については、全国平均と開きがあります。
- ・学習指導要領の内容では「話す事・聞く事」「読む事」に課題がみられます。

② 算数

- ・一部の問題において全国平均を上回っています。
- ・「異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる」問題は全国平均を上回っています。しかし、図形において「台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」問題や変化と関係において「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる」「10%増量の意味を解釈し、増量後の量が増量前の量の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる」問題の正答率については、全国平均と開きがあります。
- ・学習指導要領の内容では「変化と関係」の領域に課題がみられます。

③ 理科

- ・一部の問題において全国平均を上回っています。
- ・「解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる」問題の正答率は全国平均上回っています。しかし、「水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる」問題の正答率については、全国平均と開きがあります。
- ・学習指導要領の内容では「地球を柱とする領域」に課題がみられます。

(2) 中学校

① 国語

- ・一部の問題において全国平均を上回っています。
- ・「目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる」問題は全国平均を上回っています。しかし、「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる」問題の正答率については、全国平均と開

きがあります。

・学習指導要領の内容では特に「話すこと・聞くこと」に課題がみられます。

② 数学

・一部の問題において全国平均を上回っています。

・「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる」問題は全国平均を上回っています。しかし、「素数の意味を理解しているかどうかをみる」問題の正答率については、全国平均と開きがあります。

・学習指導要領の内容では「数と式」の領域に課題がみられます。

③ 理科

・多くの問題において全国平均を上回っています。

・「地域の言い伝えを科学的に探究し、大地の変化と地層の様子や構成物の知識を使って、地層の重なりや広がりやを推定できるかどうかをみる」「身近な電化製品の電気回路で抵抗がある理由を問うことで、抵抗の概念が理解できているかどうかをみる」問題の正答率は全国平均を大きく上回っています。しかし、「スケッチから植物の特徴を読み取り、葉・茎・根の知識と技能を使って、茎の横断面や根の構造を適切に表現できるかどうかをみる」問題の正答率は全国平均を下回っています。

・学習指導要領の内容では「生命を柱とする領域」に課題がみられます。

3. 児童・生徒質問調査結果について

【児童質問調査(小学校:全国平均との比較)】

※○:全国平均を上回る質問項目

●:全国平均を下回るまたは上回っても課題として捉えられる質問項目

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合(以下同様)

- | | |
|---|--------------------|
| ○将来の夢や目標を持っていますか | 熊野市:85.1% 全国:83.1% |
| ○友達関係に満足していますか | 熊野市:93.8% 全国:91.7% |
| ○地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事は除く) | 熊野市:45.7% 全国:39.4% |
| ○自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか | 熊野市:74.6% 全国:68.6% |
| ○授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り | |

- 組んでいますか 熊野市:96.5% 全国:91.9%
- 国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくださいか 熊野市:83.4% 全国:75.5%
- 算数の授業の内容はよく分かりますか 熊野市:84.2% 全国:78.3%
- 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) 1時間以上 熊野市:37.8% 全国54.0%
- 土曜日や日曜日など学校が休みの日、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) 1時間以上 熊野市:25.4% 全国47.1%
- 読書は好きですか 熊野市:58.7% 全国69.7%
- あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか 熊野市:52.6% 全国69.3%
- 理科の勉強は好きですか 熊野市:68.4% 全国80.1%
- 自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか 熊野市:54.4% 全国68.9%

【生徒質問調査(中学校:全国平均との比較)】

- 人が困っているときは、進んで助けていますか 熊野市:98.0% 全国 90.9%
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか 熊野市:87.0% 全国:79.2%
- 地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事は除く) 熊野市:38.0% 全国:29.5%
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか 熊野市:85.0% 全国:75.3%
- 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか 熊野市:72.0% 全国:63.0%
- 国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくださいか 熊野市:84.0% 全国:70.2%
- 数学の勉強は好きですか 熊野市:63.0% 全国:53.8%
- 数学の授業の内容はよく分かりますか 熊野市:87.0% 全国:70.3%
- 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) 2時間以上 熊野市:23.0% 全国 30.8%

- 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

2時間以上

熊野市：23.0% 全国32.5%

- あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか

熊野市：67.0% 全国76.6%

- 国語の勉強は得意ですか

熊野市：34.0% 全国51.4%

小学校では、「将来の夢や目標を持っている」「友達関係に満足している」といった自己肯定感や他者との協働意識が全国平均を上回っています。また、地域の大人と関わる機会が比較的多いことも、子どもたちの社会性を育む要因のひとつとなっています。

一方で「読書が好き」と答えた児童の割合は全国平均よりも少なく、読書量の不足が明らかです。また、平日・休日ともに学校外での学習時間が全国平均より短い傾向にあり、自宅学習や自主的な学びへの取り組みが十分とは言えません。「自分の考えを工夫して発表する」「国語や算数の授業で先生から具体的なアドバイスをもらう」といった項目については肯定的な回答が得られているものの、より深い学びや表現力の育成にはさらなる工夫や支援が求められます。さらに、ICT 機器の活用にも自信を持っていない児童が多く、今後の育成が課題となっています。

中学校についても、「将来の夢や目標」「人が困っている時に進んで助ける」「社会や地域に貢献したい」といった自己肯定感や社会性、他者への配慮が全国平均より高い傾向にあります。また、回答などからは生徒たちが授業に主体的に参加している様子や、国語や数学の授業において「先生がつまずきのポイントや改善方法を伝えてくれる」という項目でも肯定的な傾向が見られ、授業改善が進んでいることが伺えます。

しかしながら、平日・週末ともに学校外での学習時間が全国平均に比べて短く、家庭や自主学習への取り組みは十分とは言えません。ICT の活用面でも、プレゼンテーション作成等に自信を持つ生徒の割合が全国と比べて少なく、さらなる活用力の向上が今後の課題です。

小学校においては特に「読書量の少なさ」と「学習時間の短さ」、中学校においては「学習時間の短さ」が課題として挙げられます。今後は、学校・家庭・地域が相互に連携し、これらの課題意識を共有しながら協働して取り組むことが必要です。とりわけ、子どもたちが自ら進んで学習に取り組むようになるための「環境づくり」と「動機づけ」が重要であると考えられます。

4. 学校質問調査結果から見えてきた傾向

全国学力・学習状況調査では児童生徒質問調査に加え学校における指導方法に関する取り組みや学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する学校質問調査を実施しています。

その中で「学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか」「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか」「授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか」については すべての小中学校が肯定的に回答しており児童生徒一人ひとりの学習状況を丁寧に把握しながら、主体的・対話的な授業の実現に向けて、各学校が取組を具体的に進めていることが伺えます。

また、授業におけるICT機器の活用頻度や ICT 活用のための職員研修の機会は全国平均を上回っていますが、「調べ学習」「自分の考えをまとめ、発表・表現」「他者とのやり取り」等における PC・タブレットなどの活用については、学校間で差がみられるため、協働的で深い学びを実現するための ICT 有効活用について、引き続き職員研修と授業での活用を進める必要があります。

5. 現在の取組及び今後の取組について

現在、熊野市教育委員会では児童生徒一人ひとりの確かな学力の定着に向け「学力向上推進事業」を柱とした研修事業を展開しています。今年 5 月には、京都女子大学の水戸部教授をお招きし、「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の実現を目指す『書く力』と『読む力』を育む授業づくり」をテーマにした研修を実施しました。また、8 月下旬に開催した学力向上研修会では、武庫川女子大学の森脇教授（前三重大学教授）を講師に迎え、本年度の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた今後の授業改善のあり方について研修を実施しました。

さらに、市から研究指定を受けた学校は、一年を通じて外部講師による専門的な指導を受けながら授業改善に努めており、その成果は今後、市内全校に共有される予定です。加えて、県教育委員会の学力向上事業の指定を受けた学校では、算数科において、習熟の程度に応じた効果的な指導法として、一人一台学習端末をはじめとする ICT 機器の活用に関する実践的な研究を進めています。

各学校においても、「全国学力・学習状況調査」および「みえスタディチェック」の結果を分析し、2 学期以降の具体的な対策について検討・協議を重ねてまいりました。今後は、各学校の実践と分析から得られた成果と課題を踏まえ、紀州教育支援事務所および市教育委員会事務局の指導主事が学校を訪問し、授業研究を通じて各学校の研修体制の一層の充実を図ってまいります。これらの継続的な取り組みを通じて、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた具体的な授業改善、課題の克服に努めていきます。